

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：八東川における地域との連携・協働による憩いの水辺づくり		
水系/河川名：千代川水系/八東川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：417km ²	整備計画流量：800m ³ /s(W=1/40)	セグメント：1
事業：環境整備	事業開始年度 平成30年度	
目標設定：なし	段階：A(フィードバック時)	
課題・目的(主な)：水際域の保全・再生・創出、水辺へのアクセス改善		
工法(主な)：護岸整備、管理用道路(石畳風遊歩道)の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

八東川の上流域に位置する鳥取県八頭郡若桜町若桜地区では、地区内の中之島公園周辺において水辺づくりによる憩いの場を創出するため、若桜町観光協会及び千代川漁協若桜支部が中心となり住民を巻き込んだ「憩いの水辺づくり推進協議会」を設立し、草刈りなどの維持管理、ホタル鑑賞会、わかさ清流まつり等、河川環境の保全に向けた多くの活動を実施している。

しかし、河道内の維持管理、ホタル観賞会や河川環境学習等において安全に水際へアプローチするための通路がないこと、土砂の堆積によりホタルの小川が埋まってしまいうなど、地域の活動に支障をきたしていた。

<課題対応・目標設定>

河川管理者として、河川景観や自然体験エリア等への地域資源を創出・再生する手伝いをし、地域の活動に弾みをつける取り組みを支援する。具体的には、水際へのアプローチ施設や景観上支障となる立木の伐採など、地域住民だけでは対応できない作業を支援し、河川景観等のポテンシャルを生かして、「地域活性化」「まちづくり」につながる整備を、地域連携・協働のもと実施することとした。

取り組み内容・対策例

地域との連携・協働のかたち



西日本豪雨後の河道状況に応じた整備



- 実施計画検討に先立ち、「憩いの水辺づくり推進協議会」との現地打合せを実施。
- 西日本豪雨(H30.7)により、河道内状況が変化したため、現状を踏まえ、地元調整の上、整備内容を決定。
- 【整備内容】
- 遊歩道整備 A=173m²
- 低水路護岸補修A=128m²
- ホタルの小川復旧V=33m³
- 巨石飛び石工 N=72個

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

着工前



完成



<整備効果>

- ・ホタルが乱舞する水際へのアプローチが可能となり、より魅力的な自然体験エリアを創出。
- ・ホタルの餌となるカワニナの住む水路へのアプローチにより、河川生態系などを学ぶ環境学習等、地域の活動に弾み。
- ・遊歩道を河川管理道として利用でき、維持管理(草刈り、水路環境保全など)作業の安全性が向上。

備考